

平成22年6月10日  
サンフランシスコ産業情報センター  
駐在員 杉本安信

## アニメイベント「ファニメコン (FanimeCon)」に垣間見る米国でのアニメ人気 —世界コスプレサミット2010の米国代表も決定—

米国西海岸のサンフランシスコ市から南へ約1時間のところに位置するサンノゼ市内で、このほどアニメに関連したイベント、「ファニメコン (FanimeCon)」が開催されました。米国内でも人気が高まる日本のアニメですが、このファニメコンは、米国でも有数のアニメイベントで、カリフォルニア州内外から参加者が集い、年々その規模を拡大してきているようです。第15回目を迎えた今年は、名古屋で夏に開催されている「世界コスプレサミット」の米国予選もこのファニメコンにあわせて会場内で行われましたので、賑わいを見せたこのアニメイベントの様子についてご紹介したいと思います。

### (熱気に包まれたファニメコン会場)

サンノゼコンベンションセンターを会場に開催されたこのアニメイベント「ファニメコン」は、主催者の情報によれば、1994年6月にいくつかのアニメクラブの関係者がアニメに対する思いを共有する場を設けることを目的に企画され、「アニメファンによるアニメファンのためのイベント」として始まりました。



会場となったサンノゼコンベンションセンター

今年は5月28日(金)から31日(月・祝)までの4日間にわたり行われましたが、初日には午後2時からの開場を前に、人気アニメの衣装や仮面を身にまとった人々、いわゆる「コスプレイヤー」らが続々と登場。初日からコスプレイヤーや見学目的の人、交流を楽しむ人など、会場内はアニメファンの熱気に包まれました。

このファニメコンの会場内では、アニメ・マンガに関して専門家やゲストらが意見交換を行うパネルディスカッションや、アニメ・マンガに関連したグッズや衣装などを販売・紹介する150にのぼるブースが設けられたほか、ステージイベント、アニメ作品のビデオ上映、



ステージイベント



ポーズをとるコスプレイヤーら

アニメを題材にしたゲームの体験、ダンス、ミュージカル、メイドカフェなど様々な企画が設けられました。会場の至る所でコスチュームをまとったいわゆる「コスプレイヤー」の撮影が頻繁に行われ、撮影される側も慣れた様子で得意のポーズをとる場面が見られました。主催者によれば、3日目夕方の時点で来場者はすでに1万5千人に上っているとのことでした。

初日に行われたメインステージでの開会式では、在サンフランシスコ日本国総領事館の長嶺総領事も登壇され、『日本を表す代名詞はかつて「経済」であったが、今は「アニメ」である。』と述べられましたが、会期中、日本のアニメが会場内のいたるところで紹介される状況を垣間見ることができ、日本のアニメへの来場者の関心の高さを大いにかがみ知る機会となりました。

以前、西海岸地域の主要都市で行われた米国の旅行会社向けの説明会では、旅行会社の方々に「コスプレ」という言葉を紹介すると、ほとんどの方がご存じない状況でしたが、こうしたアニメイベントでは「コスプレ」「コスプレイヤー」は共通の言葉となっており、「自分はコスプレイヤー歴何年」などという自己紹介の仕方がよく行われるようです。中には10年以上のコスプレイヤー歴という方も多く見られましたが、このファニメコンが15年目を迎えるように、全米各地のアニメ関連イベントも10年を超えるものが多く、日本のアニメへの関心も益々広がりを見せてきているように感じられました。



アート・ギャラリー内の様子 ©Lionel Lum



記念撮影の様子 ©Lionel Lum

### (盛り上がりを見せた「世界コスプレサミット2010」の米国代表選考会)

2003年に名古屋を開催地として始まり、愛知万博でもコンテストが行われた「世界コスプレサミット」ですが、今年は7月31日と8月1日の2日間にかけての開催が予定され、世界15か国から代表が集うこととなっています (<http://www.tv-aichi.co.jp/wcs/>)。米国代表の参加は2005年の愛知万博以来、今年で4回目となりますが、今年の米国代表選考会はこの「ファニメコン」に合わせて開催されました。

選考会では、それぞれのチームが審査員の前で自らが扮するアニメの登場人物になりきって歌や演技などを披露しましたが、もともと手作りの衣装での参加が条件とされており、審査の対象は、単に演技やポーズの良さだけではなく、衣装の出来栄も評価の対象となっているようです。実際に、審査員らは演技後の出場者への質問の中で、衣装に関するやりとり時間に時間を割いている様子が見られました。中には製作に6カ月を費やしたという出場者

もいて、コスプレイヤーならではのこだわりも感じられました。

この米国代表選考会の開催にあたり、オーガナイザーとして運営にあたったのは、2005年の万博開催時に米国代表としてコスプレサミットに参加した**Laura Ann Chase**氏でした。審査員として参加した世界コスプレサミット実行委員会の方々によれば、代表経験者が運営側に回った初めてのケースとのことで、今後も名古屋を訪れた世界のコスプレ代表者らがこうした形で名古屋と世界を結ぶコスプレ親善大使の役割を果たしてくれることが期待されます。

また、出場者により様々な演技が繰り広げられ、一般見学者の方も熱心に見守った選考会でしたが、この選考会会場では2005年の愛知万博でのサミットの様子や昨年の世界コスプレサミットの様子を紹介する映像も流され、出場者や見学者らは決勝の会場となる愛知、名古屋のイメージを大いに深める機会となったように感じられました。



世界コスプレサミット2010米国代表選考会での出場者と審査員のみなさん

サンフランシスコ市内のジャパントウンで1967年から毎年行われている日本文化関係の一大イベント「さくら祭り」でも、1999年から「アニメ・コスチューム・パレード」が行われており、200人を超えるコスプレイヤーらが市役所前からジャパントウンまでを練り歩き、多くの見学者を集めるなど、さくら祭りの目玉の一つにもなっています。

全米各地で行われている日本文化関係のイベントでも、アニメ、そしてコスプレの存在感は大きく増してきているようですが、米国の若者にとっての日本のイメージをこうしたポップカルチャーが形作っていく面もますます強まるのではないかと思います。愛知県サンフランシスコ産業情報センターとしても、米国におけるこうしたアニメ文化をめぐる事情などについても、引き続き注目していきたいと思えます。